

例年より短い26日間の夏休みを過ごした子どもたちが、元気に学校に帰ってきました。「夏休みが終わった。」「もう学校再開。」とのニュースが流れても、全国、いや県内でも日程がバラバラでまるで人ごと。毎年、高校球児の晴れ舞台が終わると、「今年の夏も終わりか…。」と感傷に浸るはずが、40℃近い気温に水にでも浸りたい気分。

こんな夏のおかげで、やはり日本人は、季節に応じた「風情」を感じる事が大切なのだと改めて思いました。自然の移り変わりが、現代では、様々なイベントに置き換わったとはいえ、その区切りごとに季節の変化を感じ、次への準備を整える…未だ厳しい外の暑さをしのぎながら、心の中はしっかりと切り替えたものです。

今こそ前向きに発想と工夫を

「光明」とは、文字どおり明るい光。転じて「明るいきざし・希望」のこと。8月18日付けの宮日新聞の見出しにこの言葉を見つけました。タネを明かすと「他競技にも光明 モデルケースに『甲子園交流試合感染ゼロ』」の記事です。

大会運営に当たっては、観戦者の制限はもちろん、各学校には名簿の提出を義務づけ、入場券の裏には氏名と座席を記入、退場時に回収…。などなど主催側の徹底した取組とそれに従った参加者のおかげで、交流試合とはいえ保護者の入場を可能にし、同じ球場で6日間も行われた全国規模の大会を、感染ゼロで終えたのでした。

この成功は、主催者側の努力だけでは成立しなかったでしょう。一旦はあきらめた甲子園での試合が決まったら、感染防止と大会全体の成り立ちのために、選手も保護者も学校も、あらゆることを想定して、細心の準備をしたはずです。バスの移動や食事、チームによっては宿泊先での対応など、大会や出場校に関わった多くの方々が選手の夢舞台のために最大限の手立てを講じられたことでしょう。

準備や大会期間中、一人でも感染が疑われる事態が起これば、その後試合ができないチームが出るであろう厳しい状況。そのような中で、関係するすべての人が、感染防止と大会運営について十分に理解し、それを誠実に実行したからこそ、成功裏に終えることができたのでしょう。

振り返れば学校も、3月からずっとコロナへの対応に明け暮れ、これまでとは違った教育活動を続けています。本校のガイドラインの基本方針では、学校行事について「精選、統合、中止などの見直しを行うが、学校行事の重要性も十分踏まえた上で検討する」としています。この言葉の中には、「安易には中止にしたい。」という思いがありません。しかし、現在、ガイドライン作成時より状況が厳しくなっているのも確かです。

9月～12月は、大きな学校行事がたくさんあります。感染防止のための取組を優先しながらも、子どもたちの大切な教育の機会を守るために、今こそみんなで知恵を絞るときだと考えています。成功のためには、保護者や地域の方々の御理解と御協力が欠かせません。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

おたずね「記念樹？」 東門から数十メートルの間に植えてある桜の木（裏面に写真）について、記念樹であるかどうかの調査を行っています。現在、各方面に尋ねているところですが、保護者、地域の皆さんから何か情報がありましたら、教頭までお知らせください。

東門から南保育園方面へ向かう道



道路に沿った敷地内の桜



校門まで数十メートル歩道がなく、歩行路が狭くなっています。
仮に、ここに歩道を設置する場合、学校敷地内の桜の木を撤去することになるそうです。
今のところ、この桜の木が記念樹であるとの情報はありませんが、
何かご存じのことがありましたら学校までご連絡ください。

(令和2年9月11日まで)

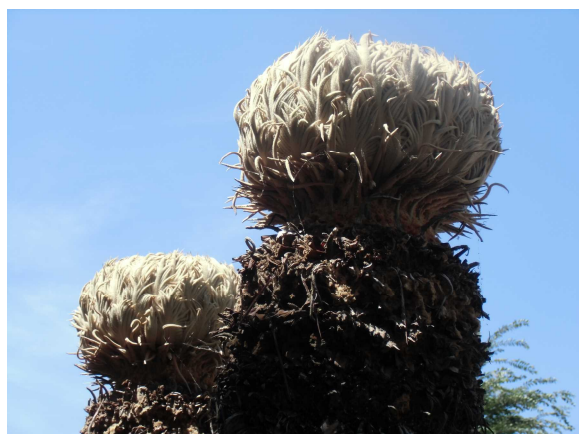
「学校スナップ」

もう運動場に
テントが張られましたよ。

運動会の練習の時に
みんなが日陰で休めるように
暑い中、先生たちみんな
張りました！



体育館前のソテツが花を咲かせているよ。
10～15年に1回という
めずらしい花だそうです。



この中に赤い実もつけるかもしれませんが
食べるとおなかをこわしますので
花だけかんさつしましょう。